

2016 年度後期

中央大学ライティング・ラボ活動報告書



中央大学ライティング・ラボは、学術的な文章の作成を支援する機関として、2011 年度 4 月に多摩キャンパスに設置されました。開室当初は、大学院留学生のみを対象とし、日本語文章の作成支援が中心でした。しかしながら、日本人学生についても、「自立した書き手」になるということが、大学における学修を行なう上で肝要であると考え、徐々に利用学生の対象を拡大してきました。2013 年度からは多摩キャンパスの全ての学生を対象として、アカデミック・ライティングの観点を用いた文章作成支援を行なっています。

本報告書では、2016 年度後期におけるライティング・ラボの活動状況を記載します。I では開室状況と利用実績、II ではセッション以外の活動について報告します。

I 開室状況と利用実績

I-1 開室期間と日数、チューター配置数

<開室期間> 2016 年 9 月 21 日から 2017 年 1 月 24 日までの月曜・火曜・水曜・木曜

<開室日数> 60 日

<設置セッション数> 2016 年度後期合計 606 コマ

内訳	9 月	50 コマ
	10 月	145 コマ
	11 月	154 コマ
	12 月	155 コマ
	1 月	102 コマ

<チューター配置数>

スーパーバイザー：1 名 アソシエイト・スーパーバイザー：1 名

チューター：10 名

I-2 受付する文章

1. 受付する文章

授業で課題となったレポート及び発表レジュメ、卒業論文、修士論文、博士論文、投稿論文、プレゼンテーション原稿（スライド用・口頭用）、研究計画書、ボランティアセンター報告書、総合政策学部プロジェクト活動報告書

2. 空きがある場合につき、受け付ける文章（予約不可）

奨学金応募書類に含まれる志望動機書

留学志望書

公務員試験練習課題

そのほか、アカデミック・ライティングの観点でコメントできそうな文章

日本語翻訳（授業の課題のみ）

3. 受付不可とする文章

就職活動関係の文章（キャリアセンターへ案内）

メールや手紙の文章

公務員試験以外の筆記試験対策のための相談

I-3 利用学生について

*利用学生数¹

	<u>2016年度後期合計</u>	<u>296名（前年比127.0%）²</u>
内訳	大学院日本人学生	2名
	大学院留学生	60名
	学部日本人学生	227名
	学部留学生	7名
	その他	0名

参考

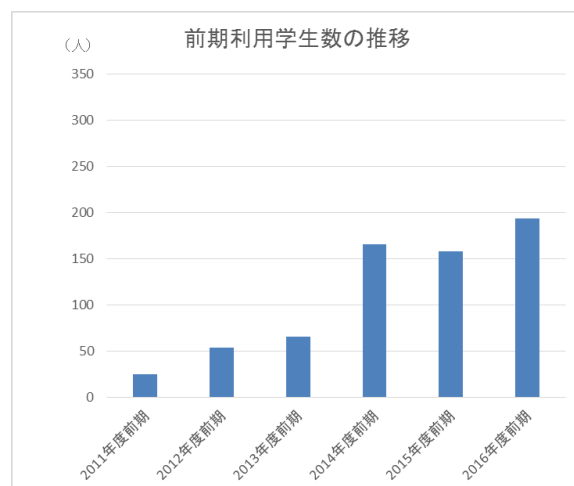


表1 前期利用学生数の推移(2011-2016年度)

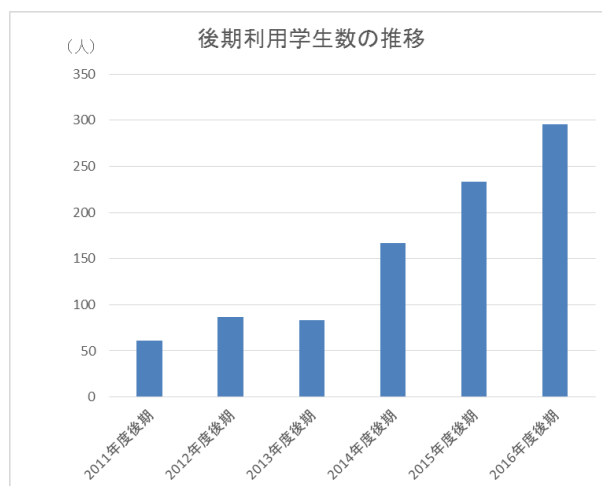
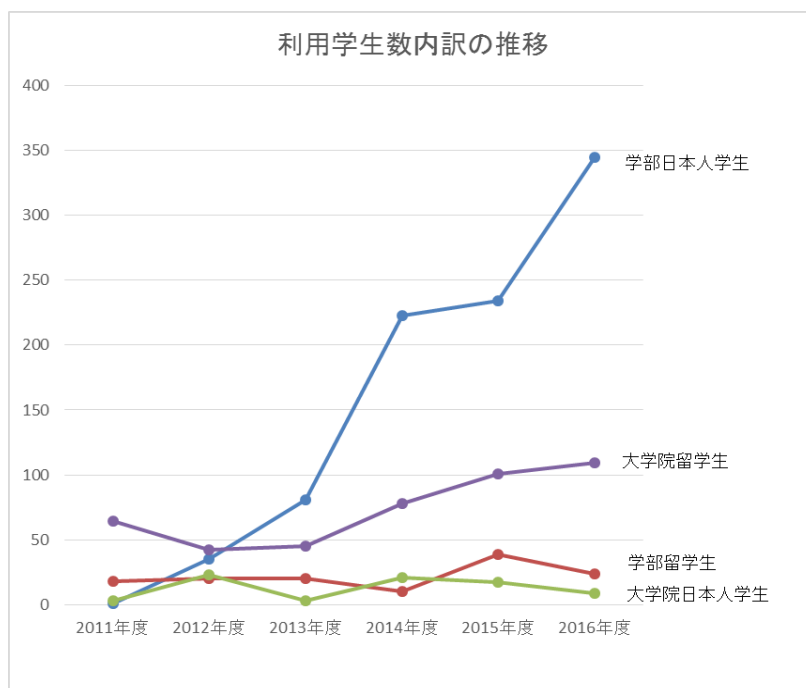


表2 後期利用学生数の推移(2011-2016年度)

注) 2013年度後期より日本人学部生の利用が開始された。

【所見】 利用学生数の着実な増加が見られる。とりわけ後期は顕著な増加が見られる。

¹ 延べ利用数。² 教授会での教員への広報、および「出張宣伝」による学生への広報活動の成果と思われる。



【所見】 学部日本人学生の急増は、出張宣伝および教員の勧めによるものと考えられる。

*利用学生の所属

法学研究科	1名
経済学研究科	0名
商学研究科	11名
文学研究科	39名
総合政策研究科	11名
公共政策研究科	0名
法学部	91名 (うち法学部通信教育課程7名)
経済学部	12名
商学部	48名
文学部	61名
総合政策学部	22名

*利用学生の学年

学部 1 年	42 名
学部 2 年	34 名
学部 3 年	8 名
学部 4 年	106 名
学部 5 年以上	50 名 ³
博士課程前期／修士 1 年	32 名
博士課程前期／修士 2 年	24 名
博士課程前期／修士 2 年以上	0 名
博士課程後期 1 年	1 名
博士課程後期 2 年	0 名
博士課程後期 3 年	0 名
博士課程後期 4 年以上	5 名
研究生・選科生	0 名
科目等履修生	0 名

*利用学生の母語

日本語	229 名
中国語	53 名
アラビア語	8 名
韓国語	6 名

I-4 相談文章の種類

卒業論文	92 件
修士論文	23 件
博士論文	1 件
授業のレポート	78 件
ゼミ論文	27 件
投稿論文	4 件
研究計画書（入試用）	39 件
研究計画書（入試用以外）	4 件
ゼミ及びプレゼンのレジュメ	3 件
発表用口頭原稿	8 件
その他	18 件

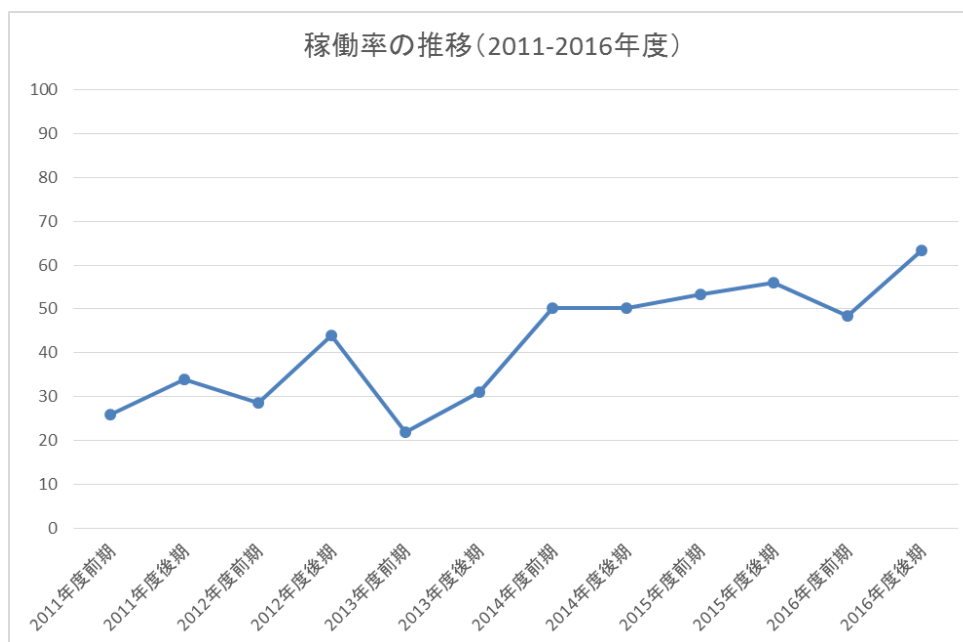
※その他の内訳 奨学金応募書類、翻訳課題、スピーチ原稿、ゼミ選考資料

³ 同一人物が継続利用し合計 41 セッション行った。

I-5 実施セッション数

＜実施セッション数＞： 390 コマ

＜セッション稼働率⁴＞ 約 64.36%



【所見】2014 年度以降、50 パーセント前後で推移していた稼働率に、2016 年度後期は顕著な変化が見られた。「出張宣伝」をきっかけとする、教員との協力関係構築により、新たな需要を掘り起こしたといえる。

I-6 利用学生からの評価

I-6-1 アンケート結果

- セッションは有益だったか (有益ではなかった・あまり有益ではなかった・有益だった・とても有益だった、の4段階評価)

1. 有益ではなかった	6 ⁵
2. あまり有益ではなかった	2
3. 有益だった	54
4. とても有益だった	224

⁴ セッション稼働率=実施セッション数 (390) ÷ 設置コマ数 (606) × 100

⁵ 「1. 有益ではなかった」の6件は、コメント欄に有益だったと分類できる記載があるため、「4. とても有益だった」の記入ミスと考えられる。

2. セッションでできたこと

【日本人学生】

文章構成の検討	53
論点の整理	45
基本的な書き方の確認	17
問いと主張を確認	16
修正点への気づき	14
チューターと一緒に検討	13
引用方法の確認	8

【留学生】

日本語文法の検討	29
文章構成の検討	9
論点の整理	7
提示資料の整理	3
語句の明確化	2
参考文献の理解	1
基本的な書き方の確認	1
修正点への気づき	1
問いと主張	1

3. セッションで有益だったのは何か（自由記述・コメント任意抽出）

【日本人学生】

- ・ 専門に関するアドバイスはゼミの先生から頂けるが、論文の執筆に関する（構成や文法など）アドバイスはラボでなければ頂けないのでとても役に立った。
- ・ 議論を通して、言葉を選んでいく作業を通して、相手に伝わる表現を学べた。
- ・ 自分の考えていること、やりたいことがクリアになった。頭の中が整理されていくうちに、自分の文章の内容の必要・不必要な部分の判断ができた。
- ・ 自分の考えが上手くまとまっていなかったのを1つずつ 5W1H の方式で確認してくれて、つながりがみえた。
- ・ 一緒に思考を整理して見える化できたこと

【留学生】

- ・ 論文の構成と日本語の修正を、チューターと一緒にしっかり考えられた。
- ・ 日本語の表現が何か不適切なところがあったら、修正できる。そして文章の構成も分かることができる。

【所見】

日本人学生はほぼ学部学生が利用しているため、文章構成や論点の整理など、文章全体にかかわる内容を検討するセッションが多い。また学部 1,2 年生は、レポートの基本的な書き方を学ぶ場ともなっている。

留学生にはニーズとしては日本語文法が 9 割以上を占める。日本語文法に加えて、文章の構成や論点などを検討する技術がチューターには求められている。

4. セッションまたはラボに対する要望など 【日本人学生・留学生あわせて】

- ・増設希望 5 件 ⇒2018 年度以降、金曜日開室を検討。
- ・ネットでの予約 12 件 ⇒来期、メールでのセッション受付を開始。
- ・環境 4 件 ⇒チューター数も増加し、稼働率もあがったため、広いスペースへ移動。
- ・広報 3 件 ⇒ポスター内容や掲示位置について来期見直しを実施。

I-6-2 ラボを利用した感想

【学生 A】

- ・ラボのセッションでよかったこと

いろいろなチューターさんに添削していただくことにより、様々な意見を取り入れることができたのがすごくよかったです。時には厳しいコメントをいただくこともありましたが、客観的に文章を読み直す非常にいい機会になりました。自分では気付かなかったミスや論理的飛躍に気付く機会にもなるので、自分以外の人に文章を見てもらう機会を設けることは非常に大事だと思います。

また、セッションを受けて、文章を作り直した際、前回の文章と比較してどの点がよくなった等細かく教えていただけた点もよかったです。

- ・ラボでできるようになったこと

わたしは一文が長くなって何が言いたいのか読み手が分からなくなるような文章を書く傾向にありました。しかし、チューターさんとのセッションを重ねることで自分自身の要点整理につながり、最終的に端的に文章を書く能力を身につけることができました。

また、私は接続詞や言い回しで間違った使い方をすることがあったのですがその点も添削を重ねご指導いただくことでかなり改善されました。

・ラボでの学びが今後どのように生かせそうか

直近では大学院で生かせると思います。大学院では大学以上に文章を作成する機会が多い上に長文を作成しなければならないので、ライティング・ラボで学んだ端的かつ読み手が読みやすい文章を作成する能力を生かしたいと思います。

また、就職活動における ES のような文字数制限がある文章を作る際も簡潔でわかりやすい文章を書く能力が試されると思うので、ラボでの学びを生かせると思います。

【学生 B】

ラボのセッションで良かったことは、2点あります。1点目が一方的なセッションにならないこと、2点目はセッションを重ねる度に思考が整理されていったこと、この2点です。

まず1点目は一方的なセッションにならないことです。チューターの方とコミュニケーションを取りながら、セッションを進めていくため、セッションを受ける側が納得しながらセッションを進めていき、納得感が得られることができます。また、これは集団ではなく1対1の形式だからこそ可能なことだと思います。

2点目はセッションを重ねる度に思考が整理されていったことです。自分の本当にやりたいことは何なのか、チューターの方があらゆる角度から質問を下さります。質問に答えていくことで、自分の中でやりたいことが分かってくいき、最後には一番やりたいことが明確になっていきます。

このコミュニケーション力と質問を行っていく力を身に着け進学予定の大学院、その先の場でも生かして生きたいという風に考えています。そのためには、是非ラボでチューターの方が行って下さった作業をゼミや日々の自学自習の際にも取り入れていきたいという風に考えています。このような機会を頂き本当にありがとうございました。

【留学生 A】

前期も後期もライティング・ラボを利用させていただきました。基本的に発表資料の日本語を直していただくために、利用させていただきました。

ライティング・ラボがあったからこそ、ちょっとだけ書く自信を付けました。やはり、ネイティブではなく、外国人ですから、変な日本語を書く可能性が高いです。ライティング・ラボでは、日本語を直していただくことだけではなく、書いたものに対して、意見も聞かせていただきました。それは大変勉強になりました。やはり、発表する前に、心配ですから、自分以外の誰かに発表資料を読んでいただいて、意見を聞くのが大事だと思います。

ラボに行くようになって、できるようになったのは、書くときに、考えの整理をちょ

っとできるようになったと思います。話し言葉と書き言葉の違いと、現在使われている言葉と使っていない言葉を注意されたので、ちょっと気をつけるようになりました。

ライティング・ラボは中央大学で勉強している外国人にとってすごく大事だと思います。しかし、ライティング・ラボに対して一つだけ不満があります。1セッションは40分です。それはちょっと短いかなと思います。修士の発表は少なくとも6ページ~ですので、一つの発表を見て頂くのは、何回もラボに通う必要になるのです。もちろん短い発表もあります。だから、一日にセッションを連続で二つ予約できるようになったら、もっと助かると思います。

Ⅱ セッション以外の活動

Ⅱ-1 教員向け広報活動

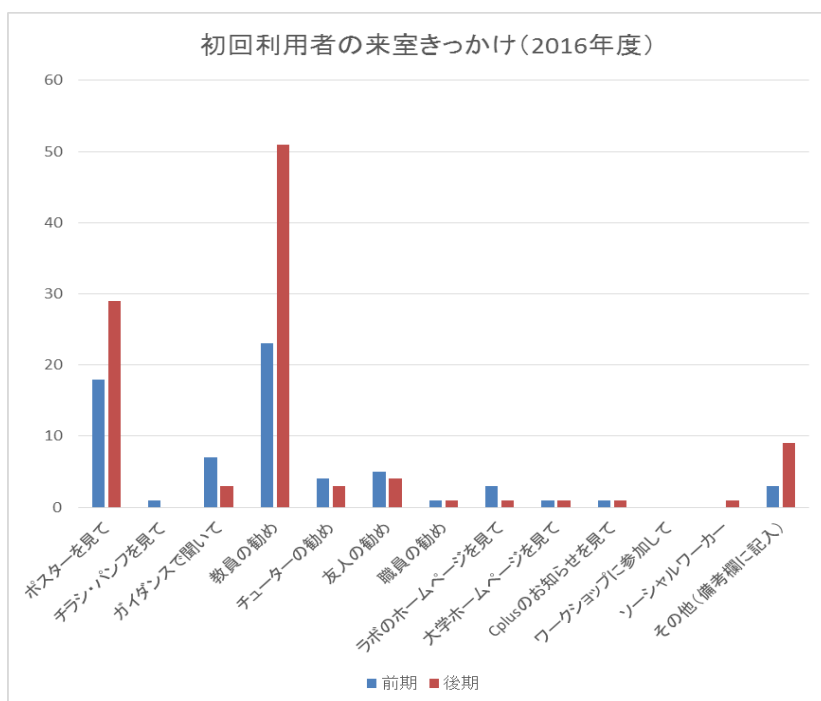
Ⅱ-1-1 今学期は授業への出張宣伝を実施し、教員向け広報活動も兼ねた。

Ⅱ-2 学生向け広報活動

Ⅱ-2-1 授業への出張宣伝

後期実施数は、17 件。主に、導入演習・演習の教室へ行き、チューターがラボの宣伝を行った。2016 年度の初回来室のきっかけは「教員の勧め」によるものが最多である。

【宣伝による効果】



【来学期の予定】

来学期も継続して、教員からの依頼に基づき授業を訪問し、ラボの理念・指導方針・利用方法を宣伝する。教員学生双方へラボの周知度を高め、利用へとつなげたい。

Ⅱ-2-2 卒論・修論執筆者向けポスター掲示

卒論・修論執筆学生に向けて、ポスターを学内に掲示した。早い時期でのラボの利用・提出前の利用を促進した。

II-3 その他の広報活動

II-3-1 ラボの HP や Twitter での発信

今学期より、HP にてラボの空きセッション情報を発信した。HP にて空き情報を確認してから、入室する学生が多くおり、ラボの利用率増加につながった。

II-4 研修

II-4-1 チューター研修の実施

【実施状況】

所定勤務時間内研修	3 回
所定勤務時間外研修	7 回

【所見】

今学期の、チューター研修の大きな柱は次の二つ。①セッションスキルを学ぶ、②担当セッションの振り返りの習慣付けである。研修の成果がセッションに生かされたことが、学生のアンケートからわかる。前学期と比較すると、セッションでの学びや気づきを詳細に記入する学生が増加した。チューターのセッションスキルが向上し、セッション内容を学生が明確に理解できた結果であろう。

II-4-2 新人チューター研修

今期の新人チューターは 2 名。

配属前研修 2 回

配属後研修 文章診断練習・先輩チューターのセッション見学・模擬セッション
実際のセッション担当&振り返り

丁寧な研修を実施することで、新人チューターがセッション技術を習得できた。

II-4-3 研究会・ワークショップへの参加

2 月 18 日（土） 19 日（日）

シンポジウム「大学におけるライティング支援体制づくりを考える」
於 関西大学

3 月 6 日（月） 第 9 回 the Writing Center Association of Asia シンポジウム

於 国際基督教大学

II-5 中央大学杉並高等学校へのチューター派遣

II-5-1 開室状況と利用実績

<開室期間> 2016 年 9 月 27 日から 2016 年 11 月 15 日までの火曜・木曜

<開室日数> 11 日

<チューター数> 3名

【利用実績】

設置セッション数	85 セッション
セッション実施数	65 セッション
セッション稼働率	76.47%

【所見】

今年度、中杉ラボの利用者で、大学入学後にラボの利用をした学生が数名いた。校内の機関を活用する力や長期的なライティング能力養成につながるため、意義ある連携事業として今後も継続していきたい。

以上

2017年3月

スーパーバイザー 中野玲子
アソシエイト・スーパーバイザー 阪口 毅